

砂時計の詩

一トンの砂が、時を刻む砂時計があるそうです。

その砂が、音もなく巨大な容器に積もっていくさまを見ていると

時は過ぎ去るものではなく

心のうちに からだのうちに積みゆくもの

と、いうことを、実感させられるそうです。

時は過ぎ去るものではなく

心のうちに からだのうちに積みゆくもの